

第 211 回 暮らしの SDGs 学習会 議事録

1. **出席者** (敬称略) 増永、吉永、横田、難波、大塚、小川、前崎、黒島、古山、笠原、筒井
ふるまぎ里山ミュージアムを実現する会より参加：藤田様、池田様、箕輪様、浅川様
2. **日時** 2025 年 6 月 13 日 (金) 13:30 ~ 15:00
3. **場所** 生涯学習センター 3 階 大会議室
4. **テーマ** ふるまぎ里山ミュージアム構想 ～流山の里山を守る～ について
5. **講師** 檜 (かし) 聡 (あきら) 氏 (ふるまぎ里山ミュージアムを実現する会共同代表)
6. **内容** 最初に、ふるまぎ里山ミュージアムを実現する会 (以下実現する会と略) の組織及び設立の経緯について説明があり、その後古間木を中心とした里山等の現状、現在の活動や今後の活動の方向について講演がありました。

<以下が講演の内容>

- * 実現する会は、2025 年 3 月 15 日に発足総会を開催し発足しました。賛同会員数約 270 人、賛同団体約 40 団体からなる市民活動団体です。
- * 流山市では、『都心から一番近い森のまち』をキャッチフレーズにして、つくばエクスプレスの開通と相俟って、沿線開発の区画整理 (5 か所、計画総面積 627ha、計画総人口 61,000 人) が行われており、更に北部では新川耕地に大規模な物流センターが建設されております。
- * そのために、流山市に多くあった森林や里山が減り、里山として最後に残ったのは、古間木を中心とした一帯のみとなりました。
- * 里山とは、雑木林、草原、小川、ため池、田んぼ、畑などから構成されて、多様な生き物の棲家になっています。古間木地区には、野鳥・カエル・トンボ等が数多く見られ、特にサシバ (野鳥：タカ目タカ科) やニホンアカガエルは、絶滅が危惧されている貴重な存在です。
- * 流山市は、みどりの基本計画、生物多様性なぐれやま戦略などを策定し、利根運河地区・新川耕地地区・市野谷地区・宮園地区・古間木地区の緑の保護に努めていますが、十分とは言えない状況もあります。
- * 実現する会は、該当地区でもまだ都市化がされていない古間木地区の里山としての環境を保存するために、『ふるまぎ里山ミュージアム構想』をまとめ、
①水田耕作の保全と回復 ②湧水と湿地の保全と回復 ③雑木林の維持・保全
④里山の生き物の調査・保全活動などの 6 項目を掲げ、
アクションプラン～里山を子供たちに残すために～をキャッチフレーズに、多くの方々の賛同を頂いて活動を始めました。

<次回予定>

- 日時** : 2025 年 7 月 11 日 (金) 13:30 ~ 15:00
場所 : 生涯学習センター 3F 大会議室
内容 : 北欧の再生可能エネルギー発電や日本を含めた世界のエネルギー事情を考える
説明 : 筒井 義憲 (OBN 会員 学習会担当)